大阪市老人クラブ徽章

全国3大運動
健康・友愛・奉仕をめざして
市内全会員に配布

月刊 大老連

平成26年 7月号
第672号 毎月1日発行
平成26年（2014年）7月1日
定価30円（送料別） 年間購読料1,100円（送料共）
購読お申し込みは、月刊大老連編集室にご連絡ください。

昭和33年9月19日第三種郵便物認可
〒556―0017
大阪市浪速区湊町1－4－1
OCATビル
発行所 一般社団法人
大阪市老人クラブ連合会
編集室 電 話 06(6635)3227
FAX 06(6635)3229

大老連定時総会を開催

事業報告書・収支決算書などを承認

大阪市老人クラブ連合会の定時総会が、5月29日（木）午後、大阪市中央区の市立中央区民センターで開催され、新たに大老連理事2名が選任されるとともに、平成25年度事業報告書・収支決算書・公益目的支出計画実施報告書及び定款の一部改正の審議が行われ、全会一致で承認されました。

開会のあいさつをする中保昌理事長

総会は原田壽総務部会長の進行で始まり、代議員定数87名中、出席者85名（8名は書面表決）となり、過半数に達したので成立しました。

まず、中保昌理事長の開会あいさつと西嶋善親大阪市福祉局長（河野圭司高齢者施策部いきがい課長代読）のあいさつの後、大会役員の選出について、司会者一任により議長に浪速区の森藤恵夫代議員、西淀川区の皆川弘志代議員、議事録署名人に天王寺区の朝倉克之代議員、淀川区の川﨑廷代議員が指名され、議事に入りました。

第1号議案の大老連理事の選任について、鷺島勝事務局長から新たに選任する理事2名の提案があり、全会一致で承認されました。

第2号議案の平成25年度事業報告書について鷺島事務局長から説明があり、第3号議案の平成25年度収支決算書及び第4号議案の公益目的支出計画実施報告書については中路晃事務局次長から説明があり、それぞれ審議が行われ、全会一致で承認されました。

最後に、第5号議案の定款の一部改正について鷺島事務局長から説明があり、審議が行われた結果、同じく全会一致で承認され、締めくくりに石井好男副理事長の閉会のあいさつで総会を終了しました。

平成25年度事業報告書の概要

今日、社会、経済、政治情勢は大きく変化しており、とりわけ人口の高齢化が急速に進む中で、いかにして豊かで活気のある長寿社会を実現していくかということが、今まで以上に重要な課題となっております。

このような中で、長寿社会をより豊かで充実したものにするためには、高齢者自らもこれらの問題意識を高め、生きがいと健康づくりに努めるとともに、多年にわたる経験や知識を生かして、積極的な地域活動に参画していくことが極めて大切であり、私たち老人クラブの果たす役割はますます大きくなってきております。

そのため、老人クラブも組織が一体となって、これからの活動の創造や実践などについて自らの課題としてとらえ、会員相互が協力し合い研鑽しながら、クラブ活動の活性化と改革に取り組む発想の転換が求められております。

平成25年度においては、大老連では今一度、老人クラブ活動の原点に立ち返って、全老連が提唱する老人クラブ21世紀プランに沿って、「健康・友愛・奉仕」の全国三大運動を基本にさまざまな活動を展開してきました。

▽「高齢者の健康ウォーキング事業」を独自の助成事業として継続実施するとともに、グラウンド・ゴルフ大会やゲートボール大会等のスポーツ事業を推進するほか、今回は「ディスコン」を取りあげてニュースポーツリーダー養成講座を開催するなどの健康づくり活動を積極的に進めてきました。

▽ねたきり高齢者の友愛訪問や百歳長寿者のお祝い訪問、友愛募金運動の推進などの友愛活動、そして、9月20日の全国一斉「社会奉仕の日」や環境美化・リサイクル活動の取り組み、あるいは子ども見守り活動などの奉仕活動など多様な活動を、精力的に実施してきました。

▽今後の老人クラブ発展をめざすためには、その活動を担う指導者、リーダーの養成が今最も必要であり、老人クラブ指導者・女性部指導者を対象とした合同研修会の開催をはじめ、防災施設の見学や身近なテーマを取りあげて女性部リーダー研修を行うほか、「健康づくり推進リーダー養成講座」は実践的な内容を含む講座として開催するとともに、新たに各区老連への出前講座としての「リーダー養成講座」を開設するなど、幅広い人材育成、リーダー養成にも努めてきたところです。

▽大阪市高齢者福祉大会などの事業共催をはじめ、老人福祉センターを拠点として活動している区老連活動とも緊密な連携を図りながら、近畿ブロック老人クラブリーダー研修会、全国老人クラブ大会などの各種研修会等を通じて、広い視野に立って積極的で活発な活動を展開してきました。

▽大老連としては、地域の高齢者を代表する組織として、高齢者が活力を持って明るく豊かな長寿社会となるよう、人生の充実と長寿を喜びあえる社会づくりを進めてきたところです。

第9回 大老連グラウンド・ゴルフ大会

優勝 団体 東成区老連　個人 内木場さん（淀川区）

❶開会あいさつをする中保昌理事長
❷天王寺区老連の片岡文吉さんが元気よく選手宣誓
❸団体優勝を勝ち取った東成区老連チームの皆さん
❹24チームが熱戦を繰り広げる

大老連主催の第9回グラウンド・ゴルフ大会が、6月5日（木）は雨のため順延となり、6月10日（火）に大阪城公園太陽の広場グラウンドにおいて、24区から144名の皆さんが参加して開催されました。

石井好男副理事長の開会宣言のあと、中保昌理事長から「本大会は高齢者の健康と生きがいづくりの一環として開催するものであり、勝敗にこだわることなく、参加者同士の親睦と交流を大いに深めてほしい」とのあいさつがあり、続いて、坂田洋一大阪市福祉局高齢者施策部長からは「大阪市では高齢者の生きがい施策を推進しており、皆さんには日頃の練習の成果を発揮されることはもとより、高齢者相互の交流、交歓も大いに図っていただきたい」との心強い祝辞がありました。

天王寺区老連の片岡文吉さんから元気のよい選手宣誓があり、中理事長と坂田部長による始球式でした。

競技はスタートしました。競技は15m、25m、30m、50mを各2本、計8ホールを3ラウンド、合計24ホールで行われ、蒸し暑い天候にもかかわらず参加者は元気いっぱいにプレーを行い、広いグラウンドにカーン、カーンと軽快な音が鳴り響く中、熱戦が繰り広げられました。

昼前に競技は終了し、午後0時50分から閉会式が行われ、成績発表のあと表彰を行い、佐藤暢哉副理事長の楽しい閉会のあいさつで大会を無事に締めくくりました。

大会成績

【団体】▽優勝＝東成区老連（373打）▽準優勝＝西淀川区老連（374打）▽3位＝淀川区老連（383打）

【個人】▽優勝＝淀川区・内木場益雄さん（49打）▽準優勝＝東成区・長岡洋子さん（55打）▽3位＝北区・吉田通弘さん（55打）▽4位＝西淀川区・﨑田高市さん（57打）▽5位＝此花区・太瀬数昭さん（57打）▽6位＝西区・小川幸夫さん（57打）▽7位＝鶴見区・辻野悦郎さん（58打）▽8位＝北区・廣川徳江さん（58打）▽9位＝西淀川区・政井眞智子さん（59打）▽10位＝東成区・森本祥子さん（59打）

随意随想

北国の春に心ばかりのお届けもの

大阪ソーシャルワーカー協会会長 大塚 保信

東日本大震災から3年余りが経過したが、被災地の現状を認識するためのシンポジウムに参加するため、5月末とはいえ山肌にまだ雪が残る東北地方を訪れた。

震災被害のその後の様子は、大阪にいても新聞やテレビ報道で知ることができるが、現地で見聞きするとまた重い実感で伝わってくる。震災被害といっても津波被害にあった方もあれば原発被害にあった方もおられ、被害の様相はさまざまである。19年前の阪神・淡路大震災の際にも研究者仲間とともに「災害福祉とは何か」を書物にまとめ、被災者の生活支援体制の構築に向けて提言したことがある。今回の震災についても何かお役に立てることはないかと思い、2日間のシンポジウムを終えたあと現地に留まり、被災地を視察し福祉関係の施設や機関を訪問して意見交換を行った。

仙台はちょうど伊達政宗ゆかりの「青葉祭り」の日にあたり、この時ばかりは日頃の鬱積を晴らそうとばかりに町を挙げて盛り上がっていた。せめてもの地元貢献と思い、日頃は質素倹約を旨とする私が、最上級の「名物・牛タン料理」を注文して細やかではあるが地元の経済向上に寄与してきた。

翌日からは、いまも原発周辺から避難してきた方々が多く住まわれている福島県いわき市を訪ねた。そこで、3年経過したいま新たな課題が残されていることを改めて知らされた。皮肉なことに町の人口は震災後に増えたそうである。避難住民が住み着いたこともあるが、よく見れば、通りすがりの人より復興工事に携わる独特な作業服姿の人が多く行きかっている。

地元の先生のお世話で、通行禁止の標識のある境界線ギリギリまで被災地を視察してまわったが、住民の生活状態のチグハグさがあちらこちらに見受けられた。一本の道路を隔てて片側には賠償金で建てたと言われている真新しい一戸建ての住宅が並び高級車がガレージに駐車している、しかし道路向かいの一帯には簡素な仮設住戸が広がっている。聞けば、仮設住戸はH市からの避難住民が住む地域で、2012年9月から賠償金の指定が外されたということである。被災時に住んでいた場所の賠償金の違いで、格差社会を生み狭い地域社会の生活風景まで一変させている現実を見せつけられた。

複雑な思いを抱きつつ、次に、原発避難地域からいち早く出て日本で最初の仮設の施設を運営していた老人保健施設を訪問した。施設長さんから当時の様々な困難事例を聞き取ったが、考えさせられたのは介護にあたる専門職員の数名が真っ先に逃げ出したということである。しばらくして職場に復帰したそうだが、その場にとどまって頑張った職員との間で大きな壁ができ施設運営に戸惑ったと本心を打ち明けられた。

ほどなくして大阪に戻り新聞を広げると、東日本大震災発生の時、現場で最後まで奮闘された故吉田昌郎（まさお）所長が「高線量の場所から一時退避し、すぐ現場に戻れる第1原発構内での待機」を命じたにもかかわらず、所員の9割は約10キロ離れた第2原発に行ってしまったことが明らかにされた。自身の命や家族の安否もわからぬ極限状態にあったろうから、第三者の私がとやかく意見を挟むことはできないが、その場にとどまり職務を全うされた方々には最高の敬意を表したい。

ともあれ、厳しい冬を耐えようやく雪解けを目にした北国の人々にとって、春の訪れは特別な思いをもって迎えることであろう。北風が、やさしく頬をなぜる風に向きをかえ、草木が薄緑の葉をつけはじめたとき、♪雪解け、青空、南風、コブシ咲く……と思わず口をついて歌われるのが千昌夫さんの持ち歌であるあの「北国の春」である。ところが地元では、春が訪れ夢がひろがる一番いい季節に突如大震災が起こり、この歌は悲しくてあまり歌わなくなったそうだ。とっさに思い浮かんだのは、昨年暮れ大阪のある老人クラブの席で学習仲間が歌った「北国の春」の替え歌である。あまりの出来栄えに、その場で直ぐに歌詞を手帳に書き留めた。2日前のシンポジウムの懇親会で、とっさに挨拶代わりに替え歌を披露し全員で歌うと会場がいっきに盛りあがった。

大阪から訪れたということで、忙しい業務をかかえながらも懇切丁寧に応対して下さった施設長さんにはお土産も持参しなかったので、せめてもの申し訳に「施設で生活されている皆さんと歌われてはいかがですか」と恐るおそる替え歌の歌詞を差し出した。思いのほか施設長は即座に「これはいいですね、さすが大阪は面白い」と私が作詞したわけでもないのにお褒めに預かった。何かお役に立てることはないかと震災地を訪れたが、貢献できたのは結局この替え歌だけだったかもしれない。

ご存知の方もおられようが、では最後にその歌詞をご披露しよう。「白玉、あんみつ、きな粉もち♪わらび餅食べたらあべかわも、あ、あべかわも旨い♪こっそり食べたらわからないだろと、届いた検診の、結果で直ぐばれる♪あの甘味屋（あまみや）へ寄ろうかな、やめようかな♪」

Panasonic

大阪駅徒歩6分

パナソニック補聴器プラザ大阪がご相談させていただきます。

大阪駅前で約20年間、補聴器専門店として営業を続けてきた実績のあるパナソニック補聴器プラザ大阪。言葉や音声の専門知識を持つ言語聴覚士をはじめ、経験豊富なスタッフが聞こえの相談に親身にお応えします。また個々に合った補聴器の提案もしてくれるので安心です。「聞こえの悩みは人それぞれ違います。

ご自身に合った機種の選択はもちろん、症状に合わせた調整が一番大切です」と小嶋所長。「安易に買ってしまい耳に合わなかった」という失敗談も多い補聴器の購入。すでに持っている人も初めての人も、国内開発で高品質な補聴器を体験できます。「ご家族の方、ご来店が難しい方もお気軽にご相談ください」

目立たない小型耳かけ（左）と耳穴式（右）

認定補聴器専門店
パナソニック補聴器プラザ大阪
大阪市北区梅田1-11-4 大阪駅前第4ビル1F
営業時間 10:00～17:30
日曜・祝日は定休日
06-6344-3348

国立文楽劇場開場30周年記念
上方演芸特選会
7月23日（水）～26日（土）午後1時開演〈小ホール〉
好評発売中！

桂 春之輔

落語 （桂 咲之輔 / 桂 あおば）
浪曲 泉 敏栄
漫才 荒川 いたし・篠原 かいし
南京玉すだれ 大塚 珠代
《仲入》
浪曲 京山 幸枝司
漫才 立山 センター・オーバー
落語 桂 春之輔

▼国立劇場チケットセンター〔10時～18時〕
0570-07-9900
03-3230-3000（一部IP電話等）
http://ticket.ntj.jac.go.jp/（一般のみ）
▼チケット売場〔10時～18時〕
▼料金 一般 2,100円／学生 1,400円
シルバー（満65歳以上）1,300円
国立文楽劇場
★地下鉄・近鉄〈日本橋〉駅下車⑦号出口徒歩1分